

障害者支援施設 白兔はまなす園

1 基本方針

すべての利用者の人権と尊厳を守り、自立した生活を地域社会で営むことを基本とし、地域移行の促進と就労支援を強化する。

また、生産（就労）活動を通じ社会の一員としての役割を担い「自信と誇りを持って暮らせる」よう支援する。さらに、入所施設としての機能を生かし「地域生活を支える拠点」として、障がい者の地域生活を支える。

2 利用者の状況（令和3年3月31日現在）

(1) 入所者状況

(人)

利用人数		前年度末利用者数	令和2年度中の入退所状況										利用延人員	定員に対する年間平均稼働率	年度末利用者数
区分	定員		入所人員	退所人員	退所理由別										
					地域移行		家庭復帰	施設移管	死亡	就職	サービス変更	他			
				GH	アパート等										
継続B型	50	49	0	8	0	0	0	5	0	1	2	0	10,565	81.9%	41
生活介護	24	26	3	1	0	0	0	1	0	0	0	0	6,216	100.4%	28
施設入所	35	34	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	11,612	90.9%	32
元年度	継続B型	50	52	1	4	0	0	0	0	0	0	4	12,087	94.1%	49
	生活介護	24	22	4	0	0	0	0	0	0	0	0	5,500	89.2%	26
	施設入所	35	33	1	0	0	0	0	0	0	0	0	11,643	90.9%	34

(2) 障害支援区分

①就労継続B型

(人)

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	2	2	9	11	4	1	0	29
女性	5	0	2	4	1	0	0	12
計	7	2	11	15	5	1	0	41

②生活介護

(人)

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	2	4	5	2	0	13
女性	0	0	2	5	7	0	1	15
計	0	0	4	9	12	2	1	28

③施設入所支援

(人)

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	2	2	7	6	3	0	20
女性	0	0	4	3	5	0	0	12
計	0	2	6	10	11	3	0	32

3 事業の実施状況

(1) 改築に向けた日中活動体制の見直し、および生産活動の効率化の促進

ア 生活介護サービスでは、就労継続支援B型からの移行者と新規利用で3名の増員となったが、1名施設移管となり、2名増の結果となった。就労継続支援B型利用者のケア会議において、ご本人の求める希望や支援内容、また、年齢や体調に合わせて生活介護への移行を勧めた。

生活介護日中活動では、アート活動を取り入れる等、創作活動や余暇活動の充実を図った。生産活動にも力を入れ、作業量の増量・収入増額となった。

イ 法人内就労系事業所との作業連携や効率のよい作業の導入の為、他事業所への作業体験を行い、他事業所との相互利用に繋げた。

コロナ禍において、菓子販売のイベントが全て中止となる中、新規販売先の契約があり、大きな落ち込みとはならなかった。

廃止作業もあり、平均月額工賃は伸び悩み17,012円（目標平均月額工賃：19,511円以上）となった。毎月の主査会で収入状況の分析を行い、経費削減対策の検討を行った。

ウ 自主生産部門ではコロナ禍の中でイベントの中止、販売の自粛等が重なる中、ファミリーマート4店舗への販路拡大により、収入を確保できた。

(2) 就労支援の充実

ア 就労希望者のニーズ把握を行うと共に就労準備研修会を開催し、就労に必要な知識や能力の向上を図った。また、個々の障害特性に配慮した施設外就労を行った。

イ 鳥取県障がい者技能競技大会へ参加し知識や能力の向上に努めた。

障害者就業・生活支援センターが開催する就労支援担当者定例会へは参加したが、障害者就業支援説明会は新型コロナウイルス感染拡大防止の為中止となった。令和2年4月1日付けで1名の方が一般就労へ結びついた。

(3) 個々のニーズに即した個別支援の質の向上

ア アセスメント、モニタリングを充実させ、本人や家族のニーズを把握し、ケア会議を行なった。個別支援計画に基づいた支援に取り組み、目標達成に努めた。

イ 生活介護の日中活動については、生産活動以外に、口腔体操やミュージックケアを取り入れながら、日課にメリハリをつけ、充実した時間を目指した。

また、日中入浴にも力を入れ、将来の生活介護事業拡充準備に入る。施設入所者の高齢化、機能低下により入浴支援や外出支援に力を入れた。

ウ 嘱託医・関係医療機関と連携して各種がん検診・定期健康診断を実施し、早期発見・早期治療を行った。日々の健康観察を密に行い、体調把握に努め、健康維持・増進に努めた。

エ サービス向上委員会を中心にして、利用者アンケートや保護者向けの満足度アンケートを行い、検証しサービス向上に取り組んだ。

オ 外部アドバイザーを招き支援内容検討会を2ヶ月に1回開催し、障害特性を理解した上での支援の取り組みを行い、職員への周知を図った。

カ 個人研修計画をもとに、希望に添った研修に参加できるよう配慮したがコロナ禍において研修の延期、中止が相次ぎ十分な研修が計画できなかった。全職員受講の園内研修には力を入れ、職員のスキルアップと利用者サービスの向上に繋げた。

キ 権利擁護・虐待防止に関する研修に積極的に参加した。園内においては、虐待防止チェックシートや接遇アンケートを実施し、職員会で改善策を検討した。

第三者委員同席の虐待防止検討委員会を開催し、意見を受けての支援の質の向上を目指した。

(4) 経営の効率化

ア 職員会議・主査会において、予算執行状況や中長期計画などの説明を行い、職員が経営意識を持つことが出来るよう情報提供を行った。

イ 事務局・あさひ園との合同改築検討会を実施した。作業班体制や食事提供体制について検討を行った。検討結果は職員会議等で随時報告し意見を求めた。

ウ ホームページやフェイスブックを随時更新し、情報公開・菓子工房はまなすのPRを行うとともに、新規利用者獲得の獲得や関係機関等へ情報提供した。

稼働率：生活介護109.3%（目標92%）、就労継続B型89.2%（目標92%）

施設入所90.9%（目標90%）、短期入所0%（目標10%）

(5) 地域貢献、地域共生社会に向けた取り組み

ア 恒例の夏祭り、クリスマス会などはコロナ禍において参加していただくことができなかったが、地域住民から畑を借用しての野菜作り、地域公民館の利用等、地域福祉を支える基幹としての役割を担った。

イ 地元小学校の地域探検隊受入れを行う等、公益的な活動に寄与した。

ウ 地域に機関誌、年間行事等を配布し、情報発信を行い白兔はまなす園の事業内容や活動の様子をお知らせした。コロナ禍により地区運動会は中止された。

エ 「きれいにし隊」を組織し、年2回地域内周辺主要道路やJR末恒駅周辺の清掃を行った。

オ 小学校等の施設見学を積極的に受け入れ、福祉教育の推進の一端を担った。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
社会福祉士実習	8月	1人	2人
計		1人	2人

(2) ボランティアの受入実績

鳥取県土整備局 [延べ1人]

5 附帯事業

(1) 短期入所事業 定員 2名及び空床型

(2) 日中一時支援事業 定員 上記同様

(3) 利用実績 (人)

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
短期入所事業(宿泊有)	0	0	2	31
日中一時支援事業	0	0	0	0

6 就労支援事業の実績

作業班	2年度目標額	実績額	達成率	作業の内容
菓子作業班	14,400,000円	13,192,192円	91.6%	菓子の製造販売
園外作業班	6,700,000円	4,870,545円	72.7%	福祉施設の除草、墓石清掃等
受託作業班	5,100,000円	5,137,058円	100.7%	ペットフードの袋詰め等
計	26,200,000円	23,199,795円	88.5%	